

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	人間と文学	担当者名	宮田 篤
授業の概要	<p>[概要] 樋口一葉(1872~1896; 明治5~29)の「たけくらべ」(1895~96)を講読します。授業では現代語訳のテキストを使いますが、ストーリーの重要な部分では一部原文を朗読します。そして、物語の展開や小説の技法に触れながら、さまざまな過渡期・葛藤について「自分自身」を軸に考えることを目的とします。ここでの「過渡期・葛藤」とはおおよそ下記の3点を指します。 1) 日本語として過渡期: 明治初期にみられた文語と口語の混在 2) 主人公の過渡期: 子供から大人へ 3) 読者である私=自分自身の過渡期: 学生から職業人へ 一葉の小説はただストーリーを読むというより、日本語の物語として耳で聴き、声に出して読むことを主とします。物語とは「語り」「語られる」ものであるという原点を体験します。</p> <p>[主題] 授業の主題は「私と文学」です。この授業では「文学」を「自分子」と位置づけます。通常問われるような「作者の言わんとするところ」はさほど重要ではありません。そうではなく、「なぜ、自分は『作者はこのように言おうとしている』と判断するのか、そのように判断する自分は何者なのか」を自らに問うことが重要だと考えます。</p>		
科目の到達目標	<p>[枠組みとしての到達目標] 「人間と文学」では、受講者の皆さんが読書によってとらえた自分と世界を「どのように表現できるか」という点を評価の対象とし、そのために必要な下記の項目を到達目標とします。 1. 樋口一葉の文章表現・日本語感覚に対する自分の理解を、自分の言葉で表現できる 2. 文学作品を創作する初歩的な技法・感性を解析し、理解した結果を自分の言葉で表現できる 3. 作品鑑賞に喜びを見出し、継続し、礼儀をわきまえつつ他者に伝承することができる</p> <p>[具体的項目としての到達目標] 具体的に「できるようになったこと」を掲げ、最終15コマ目の授業で到達度を自己点検します Ⅰ. 作家 樋口一葉について理解したことを説明することができる 1. 樋口一葉の生涯と人物について 2. 樋口一葉の生きた時代について 3. 樋口一葉の文章表現の特徴について Ⅱ. 「たけくらべ」という作品について理解したことを説明することができる 4. 舞台となった竜泉町界隈(見返り柳, 大鳥神社, 千束稲荷神社など)について 5. 明治初期・中期の廓街, 表町と横町, 学校制度, 筆屋, 酉の市などについて 6. 作品の概略・あらすじについて 7. 登場人物・大黒屋の美登利について 8. 登場人物・龍華寺の藤本信如について 9. 登場人物・田中屋の正太郎について Ⅲ. 作品を読むことで見えてくる自分自身について説明することができる 10. 作品をとらえる・判断する自分とは何ものなのかについて</p>		
授業時間外学修(予習・復習)			
フィードバックの方法			
単位認定の要件	<p>90点~100点 S 85~89点 A+ 80~84点 A 75~79点 B+ 70~74点 B 65~69点 C+ 60~64点 C 59点以下 D(不合格)</p>		
評価の方法・割合(%)	<p>30% 受講課題1[F1~3]Formsによる課題・意見作成 20% 受講課題2[GW1~2]グループワークまたはペアワークでのふり返り・意見作成 40% 期末レポート作成・提出 10% 自己成長分析[J]自己点検・分析シート作成</p>		

履修上の注意事項	<p>◆授業中に無断で欠課・遅刻・途中入室・退室をする, 他の受講者への迷惑行為, 授業進行を妨げるなど, 一般常識・生活常識・倫理観の無い方の受講行為(私語・いびき・徘徊等)を固く禁じます。</p> <p>* オフィスアワー 火曜18:00~19:30</p>
----------	---

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/21		1. オリエンテーション／作家・樋口一葉に関する理解① 人物 予習: 15分 テキストの年譜を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 30分 作家・樋口一葉の文学史上の特徴について自身の理解をノートに記載する	
2	9/28		2. 作家・樋口一葉に関する理解② 時代背景 予習: 15分 第一章での時代背景に関する不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 30分 作家・樋口一葉の評伝上の特徴について自身の理解をノートに記載する	
3	10/5		3. 「たけくらべ」を読む 一「廻れば大門の見返り柳いとながけれど…」 予習: 30分 第一章を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく	
4	10/12		4. 「たけくらべ」を読む 二「八月二十日は千束神社のまつりとて…」[F1] 予習: 30分 第二章を読み, 語り手が直接語る箇所をノートに書き出しておく	
5	10/19		5. 「たけくらべ」を読む 三「解かば足にもとどくべき毛髪を, 根あがりに堅くつめて…」 予習: 30分 第三章を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 15分 美登利のおいたちと家族について自身の理解をノートに記載する	
6	10/26		6. 「たけくらべ」を読む 四「打つや鼓のしらべ, 三味の音色に事欠かぬ場処も…」 予習: 30分 第四章を読み, 語り手が直接語る箇所をノートに書き出しておく 復習: 15分 子どもたちにとっての美登利と正太郎それぞれの立場についてノートに記載する	
7	11/2		7. 「たけくらべ」を読む 五「待つ身につらき夜半の置炬燵, それは恋ぞかし…」[F2] 予習: 30分 第五章を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 15分 三五郎のおいたちと家族について自身の理解をノートに記載する	
8	11/9		8. 「たけくらべ」を読む 六「めずらしい事, この炎天に雪が降りはせぬか…」 予習: 30分 第六章を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 15分 正太郎のおいたちと家族について自身の理解をノートに記載する	
9	11/16		9. 意見交換「たけくらべ」をふり返る(その1)[GW1] 予習: 30分 主要人物の台詞と心情・行動をふり返っておく 復習: 30分 意見交換をふまえ, 美登利の魅力的な言葉や行動についてForms課題に入力する	
10	11/30		10. 「たけくらべ」を読む 十三「此処は大黒屋のと思う時より, 信如は物の恐ろしく…」 予習: 30分 第十三章を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 15分 信如と長吉の互いを思いやる心情について自身の理解をノートに記載する	
11	12/7		11. 「たけくらべ」を読む 十四「この年三の酉までありて, 中一日はつぶれしかど…」 予習: 30分 第十四章を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 15分 酉の市についての自身の理解をノートに記載する	
12	12/14		12. 「たけくらべ」を読む 十五「憂く恥ずかしく, つつましき事身にあれば…」[F3] 予習: 30分 第十五章を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 15分 美登利のおとなになりたくないという心情について自身の理解をノートに記載する	
13	12/21		13. 「たけくらべ」を読む 十六「真一文字に駆けて人中を抜けつ潜りつ…」 予習: 30分 第十六章を読み, 不明箇所をノートに書き出しておく 復習: 15分 信如のおとなになっていく心情について自身の理解したことをノートに記載する	
14	1/18		14. 意見交換「たけくらべ」をふり返る(その2)[GW2] 予習: 30分 作品全体を読み直し(七~十二章を含め)主要人物の心情・行動をふり返っておく 復習: 30分 意見交換をふまえ, 「たけくらべ」における信如の役割についてForms課題に入力する	
15	1/25		15. 「たけくらべ」受講全体のふり返り; 自己点検・分析シート作成 予習: 45分 作家・作品・時代背景等を再度ふり返っておく 復習: 15分 授業のふり返りを基に期末レポート作成の準備をする	
期末試験				

使用テキスト	樋口一葉他:21世紀版少年少女日本文学館1『たけくらべ・山椒大夫』(2009), 講談社
参考文献 参考URL	津留有希:名作旅訳文庫4『たけくらべ』(2010), JTBパブリッシング すぎき大和:まんが たけくらべ (2004), 晶文社 要約文庫『たけくらべ』 http://youyakubunko.lv9.org/higuchi/takekurabe.php 要約文庫『たけくらべ(現代語訳)』 http://youyakubunko.lv9.org/higuchi/takegen01.php (その他, 参照する文献・WEB情報等は授業内で適宜紹介します)
備考	

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
科目名	情報技術の仕組みと活用				担当者名	本間 維			
授業の概要	<p>この科目の目的は、現代の情報流通を支える基礎的な技術について、その技術の仕組みや社会での応用について理解し説明できるようになることです。</p> <p>この科目では、情報をコンピュータ上で表現するための基礎的な技術、データベースやネットワークの仕組みなどを解説します。また、情報技術を積極的に取り入れてきた図書館を事例の一つとして、情報技術がどのような目的で利用されるのか、利用する上で留意すべき点などと併せて解説します。</p> <p>科目の内容は、情報処理技術者試験のひとつである「ITパスポート試験」のうち、テクノロジー系の内容にある程度準拠しつつ、司書科目として必要な要素を追加したものです。</p>								
科目の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 二進数を用いた情報表現の方法について文章で説明できる 2. コンピュータやシステムを構成する各要素の名称や役割について文章で説明できる 3. 情報デザインにおいて配慮すべき点を列挙できる 4. データベースの構造とデータベース管理システムの機能を文章で説明できる 5. コンピュータネットワークを構成する各種の規格・規約について、簡易な文で説明できる 6. 情報セキュリティ侵害を防ぐための物理的・人的・技術的な対策を列挙し、簡易な文で説明できる 								
授業時間外学修 (予習・復習)	<p>復習</p> <p>第2回： 10進数と2進数とを相互に変換する方法をノートにまとめる / ビット・バイト等の単位変換の方法をノートにまとめる(60分)</p> <p>第3回： コンピュータを構成する部品の名前と役割をノートにまとめる(60分)</p> <p>第4回： システム構成の種類と特徴をノートにまとめる(60分)</p> <p>第5回： ソフトウェアの種類と役割の違いについてノートにまとめる(60分)</p> <p>第6回： 確認テスト1で正しく回答できなかった問題について、該当する授業資料を見直す(60分)</p> <p>第7回： よりよいユーザインタフェースに求められる各種の要件と具体的な実装例をノートにまとめる(60分)</p> <p>第8回： 二進数を用いた画像・音声・動画の表現方法についてノートにまとめる(60分)</p> <p>第9回： データベース管理システムの機能をノートにまとめる(60分)</p> <p>第10回： 確認テスト2で正しく回答できなかった問題について、該当する授業資料を見直す(60分)</p> <p>第11回： 自身が日常的に利用しているネットワーク環境について、授業で扱った用語を用いて説明できるようにノートにまとめる(60分)</p> <p>第12回： 通信プロトコルの名前と役割をノートにまとめる / 通信プロトコルが細かく分割されている理由をノートにまとめる(90分)</p> <p>第13回： 情報セキュリティ侵害を防ぐための、物理的・人的セキュリティ対策のねらいと方法をノートにまとめる(60分)</p> <p>第14回： 情報セキュリティ侵害を防ぐための、技術的セキュリティ対策のねらいと方法をノートにまとめる(60分)</p>								
フィードバックの方法									
単位認定の要件	<p>確認テスト1 15% ※第6回に実施 第1回～第5回までを出題範囲として、穴埋め問題、○×問題、記述式問題によって評価を行います。到達目標1と2の達成状況を評価するものです。 15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たしたものと評価し、13点以上を達成水準とします。テストの実施後、授業内で設問とその解答について解説します。 授業スライドやノート、図書館等から借りてきた本、各自で印刷したWebページなどを持込可能です。</p> <p>確認テスト2 15% ※第10回に実施 第7回～第9回までを出題範囲として、穴埋め問題、○×問題、記述式問題によって評価を行います。到達目標3と4の達成状況を評価するものです。 15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たしたものと評価し、13点以上を達成水準とします。テストの実施後、授業内で設問とその解答について解説します。 授業スライドやノート、図書館等から借りてきた本、各自で印刷したWebページなどを持込可能です。</p> <p>確認テスト3 15% ※第15回に実施 第11回～第14回までを出題範囲として、穴埋め問題、○×問題、記述式問題によって評価を行います。到達目標5と6の達成状況を評価するものです。 15点満点のうち、10点以上が基準を最低限満たしたものと評価し、13点以上を達成水準とします。テストの実施後、授業内で設問とその解答について解説します。 授業スライドやノート、図書館等から借りてきた本、各自で印刷したWebページなどを持込可能です。</p> <p>学期末試験 55% 全15回の授業が終了後、試験期間において実施します到達目標1～6の達成状況を評価するものです。</p>								

評価の方法・割合 (%)	
履修上の注意事項	成績評価が60%に満たない場合は再試験の対象とします。

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/21		1. オリエンテーション a. 科目の内容について b. 情報技術が活用されている場面 c. 情報技術について学ぶ意義	
2	9/28		2. 基礎理論 a. 二進数とその用途 b. 二進数による文字表現と文字コード c. 情報量の表し方(ビット、バイト等)	
3	10/5		3. コンピュータの構成要素 a. コンピュータの基本的な構成と役割 b. プロセッサの仕組み c. メモリの種類と特徴 d. 記憶媒体の種類と特徴 e. 入出力インターフェースの種類と特徴	
4	10/12		4. システムの構成要素 a. システムとは何か b. クライアントサーバシステム c. 仮想化システム d. Webシステム e. システムの性能、信頼性、経済性	
5	10/19		5. ソフトウェア a. OSの機能、特徴 b. ファイル管理の考え方 c. ソフトウェアパッケージ(オフィススイートなど) d. オープンソースソフトウェア	
6	10/26		6. 確認テスト1 a. 確認テスト1の実施 b. 確認テスト1の解説	
7	11/2		7. 情報デザイン a. インタフェース設計 b. Webデザイン c. ユニバーサルデザイン	
8	11/9		8. 情報メディア a. 二進数による画像、音声、動画の表現 b. 符号化の種類と特徴(JPEG、MPEG、MP3など) c. AR、VR d. 情報の圧縮と伸長	
9	11/16		9. データベース a. データベースの意義 b. データベース管理システム c. データ分析、データベース設計、データモデル d. データベースからのデータの抽出 e. トランザクション処理(排他制御、障害回復など)	
10	11/30		10. 確認テスト2 a. 確認テスト2の実施 b. 確認テスト2の解説	
11	12/7		11. ネットワーク(1) a. 通信プロトコルの必要性 b. 代表的な通信プロトコル c. IPアドレスの仕組み d. インターネットの特徴と基本的な仕組み e. 電子メール、インターネットサービスの特徴	
12	12/14		12. ネットワーク(2) a. 通信プロトコルの必要性 b. 代表的な通信プロトコル c. IPアドレスの仕組み d. インターネットの特徴と基本的な仕組み e. 電子メール、インターネットサービスの特徴	

13	12/21	13. 情報セキュリティ(1) a. 情報セキュリティの基本的な考え方 b. 様々な攻撃手法と事例、対策 c. 物理的・人的セキュリティ対策(入退室管理、情報セキュリティ教育など)	
14	1/18	14. 情報セキュリティ(2) a. 技術的セキュリティ対策(アクセス制御、SSL/TLSなど) b. 認証技術の種類と特徴(ID・パスワード、デジタル署名、生体認証など) c. 暗号技術の仕組みと特徴(共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式、ハイブリッド暗号方式公開鍵基盤(PKI)など)	
15	1/25	15. 確認テスト3 a. 確認テスト3の実施 b. 確認テスト3の解説	
期末試験			

使用テキスト	特になし。
参考文献 参考URL	
備考	オフィスアワーは授業の初回で説明します。 適宜チャット等で質問していただいてもかまいません。

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	1単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	共生社会と聴覚障害(手話)	担当者名	浅利 義弘
授業の概要	聴覚障害、ろう者の生活及び関連する制度についての理解と認識を深めるとともに、障害者権利条約及び障害者基本法による「手話言語」に規定された手話の歴史及び特徴を理解し、手話で日常生活を行うことに必要な手話語彙及び手話表現技術を習得する。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を説明できる。 ・手話の歴史、手話の地域性、個人性等について説明できる。 ・相手の簡単な手話が理解でき、手話あいさつ、自己紹介程度の会話が出来る。 ・手話の基本文法を学び、相手の手話ができ、特定の聴覚障害者とならば日常会話を手話でできる。 		
授業時間外学修(予習・復習)	予習:自己表現・会話をするための手話を1つ以上覚えてきてください。(30分) 復習:手話の反復だけでなく、歴史や背景を今一度振り返ってみてください。(30分)		
フィードバックの方法			
単位認定の要件			
評価の方法・割合(%)	手話でのコミュニケーション能力評価(手話による応答) 60% レポート 30% 受講態度 10%		
履修上の注意事項	ろう者のため、手話によるコミュニケーションにてお願いします。レポート課題はコメントをつけて後日返却する。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/21		第1回 「聴覚障害と社会環境」 挨拶等表現の基礎	
2	9/28		第2回 「ろう者のコミュニケーション手段とその特徴」 自己表現①	
3	10/5		第3回 「障がいと社会環境」 自己表現②	
4	#####		第4回 「ろう者の歴史」 自己表現③	
5	#####		第5回 「ろう者のくらし」 自己表現のまとめ	
6	#####		第6回 「ろう者関連福祉制度」 対話の基礎①	
7	11/2		第7回 「ろう者のスポーツ活動とデフリンピック」 対話の基礎②	
8	11/9		第8回 「ろう者の社会環境」 対話の基礎③	
9	#####		第9回 「手話の歴史」 対話の基礎のまとめ	
10	#####		第10回 「手話の特徴」 会話の基礎①	
11	12/7		第11回 「手話の仕組みと働き」 会話の基礎②	
12	#####		第12回 「手話にかかわる法律」 会話の基礎③	
13	#####		第13回 「手話と社会」 会話のまとめ①	
14	1/18		第14回 「手話の世界・国際手話」 会話のまとめ②	
15	1/25		第15回 「総まとめ」	
期末試験				

使用テキスト	授業内で資料配布
参考文献 参考URL	
備考	ろう者のため、手話によるコミュニケーションにてお願いします。

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	人間と生涯学習	担当者名	成田 昌造
授業の概要	この授業は、司書資格取得の為の必履修科目である。専門職である司書には学習者を支援するための知識が求められ、その役割が期待されている。 このことを踏まえ、受講者の主体的な学習活動を期待してアクティブ・ラーニング型の学習形態を活用しながら、生涯学習の意義と領域、生涯学習を支える行政のしくみ、生涯各期の学習課題や学習を支える施設とその形態・方法並びに学習支援の方法、さらには生涯学習の評価とその活用等について幅広く学ぶ。		
科目の到達目標	(1)生涯学習に関する基本的な知識を身に付け、課題解決のための方策を考えることができる。 (2)学校教育並びに社会教育という教育の二つの領域に関する理解を深め、生涯学習との関係性を説明できる。 (3)現代社会の諸問題を挙げて、その解決のための事業を企画しプレゼンテーションできる。		
授業時間外学修(予習・復習)	人のグループでラベルワーク等の作業後、プレゼンテーションの準備のために授業時間外で取り組むこともある。		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	【評価基準】 ●生涯学習の課題解決のための方策を具体的に発表できる。 ●学校教育、社会教育について説明でき、生涯学習との関係性を説明できる。 ●現代社会の諸問題を挙げて、その解決のための事業を企画できる。		
評価の方法・割合(%)	【成績評価の方法】 ○学期末試験 60% ○学習意欲(提出物5回・質疑応答等) 30% ○グループワーク等での活動状況 10%		
履修上の注意事項	○全国及び青森県内における生涯学習の実情や事例から、学生自身の生涯学習に資する。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/21		第1回 オリエンテーション ①授業の概要と目的 ②授業の到達目標 ③授業の計画と予習・復習等 ④成績評価の方法 ⑤図書館司書の資格取得 第1章 生涯学習とは何か(その1) 1. 「生涯にわたる学習」としての生涯学習 2. 国際社会における議論 3. 日本での議論・政策 * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.1～12を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：「生涯学習の概念」を、発表できるようにすること。	
2	9/28		第2回 第1章 生涯学習とは何か(その2) 4. 生涯学習を巡る今後の課題 (コラム)EUの生涯学習政策と生涯スポーツについて 第2章 生涯学習の理念と理論(その1) 1. ユネスコとOECD 2. アンドラゴジーの誕生 * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.12～22を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：「現代的課題」(公共的課題)について、ノートにまとめておくこと。(30分)	

3	10/5	<p>第3回 (コラム)「EUの生涯学習政策と生涯スポーツ」に関して、提出された課題文について解説する。 第2章 生涯学習の理念と理論(その2) 3. 自己決定性という性質 4. 自己決定型学習から意識変容型の学習へ 5. オルタナティブな学習理論 (コラム)高齢者と学習社会 *授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.22～32を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：「生涯教育の理念」についてまとめ、自らの言葉で説明できるようにすること。(30分)</p>	
4	10/12	<p>第4回 第3章 生涯学習の内容と方法(その1) 1. 生涯学習の内容 2. 生涯学習の形態 3. 大学などの教育機能の開放 *授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.33～42を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：生涯学習の内容と形態について、自らの言葉で説明できるようにすること。(30分)</p>	
5	10/19	<p>第5回 第3章 生涯学習の内容と方法(その2) 4. 民間組織の台頭と情報社会がもたらす影響 (コラム)PISAとPIAAC、市民大学、NPOとボランティア *授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.42～48を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：「生涯学習の振興法」について、メモを見ながら説明できるようにしておくこと。(30分)</p>	
6	10/26	<p>第6回 (コラム)「PISAとPIAAC、市民大学、NPOとボランティア」の、提出された課題文について解説する。 第4章 学校教育と生涯学習(その1) 1. 生涯学習からみた学校教育の位置づけ 2. 生涯学習の基礎を培う学校教育 3. 学社連携～学校と社会との協働による「学び」の創造～ *授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.49～59を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：学校と地域社会との双方向的な支援に係る具体的</p>	
7	11/2	<p>第7回 第4章 学校教育と生涯学習(その1) 4. 開かれが学校づくりの実際～子どもを支える住民の学びの実践～ (コラム)キャリア教育とインターンシップ *授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.59～64を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：コミュニティスクールについて、具体的に内容を発表できるようにすること。(30分)</p>	
8	11/9	<p>第8回 (コラム)「キャリア教育とインターンシップ」について、提出された課題文の解説。 第5章 社会教育の制度(その1) 1. 社会教育とは何か 2. 社会教育の施設 3. 社会教育を支える人々 4. 社会教育の計画と評価 *授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.65～84を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：「社会教育とは何か」について、具体的に内容を発</p>	
9	11/16	<p>第9回 (コラム)アジアのコミュニティ学習センター(CLC)と東日本大震災と社会教育第5章 社会教育の制度(その2) 第6章 生涯学習支援の動向と課題(その1) 1. 生涯学習支援におけるネットワークの必要性 2. 民間との連携・協力 3. 学習情報提供・学習相談 *授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ●予習の内容及び方法：テキストPP.85～95を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ●復習の内容及び方法：「生涯学習支援の動向」について、メモを見ながら説明できるようにしておくこと (3分)</p>	

10	11/30	<p>第10回 (コラム)「アジアのコミュニティ学習センター(CLC)と東日本大震災と社会教育」の課題文の解説。 第6章 生涯学習支援の動向と課題(その2) 4. 生涯学習支援の課題～新しいネットワーク構築へ～ (コラム)企業の社会的貢献 第7章 まちづくりと生涯学習(その1) 1. まちづくりの諸形態と生涯学習の位置づけ 2. 生涯学習まちづくり～生涯学習まちづくりという用語の捉え方～ * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ● 予習の内容及び方法：テキストPP.95～103を読んで、メモを見ながら説明できるようにしておくこと。(30分) ● 復習の内容及び方法：「企業の社会貢献」について 具体的に内容を発表</p>	
11	12/7	<p>第11回 (コラム)「企業の社会的貢献」に関わる課題文の解説。第7章 まちづくりと生涯学習(その2) 3. 住民参加の概念と実際 4. 地域を創造する住民の学び *【演習】まちづくりについて考える(グループワーク形式) ● 予習の内容及び方法：テキストPP.103～110を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ● 復習の内容及び方法：本時のグループワークを振り返り、自分の考えを整理しノートにまとめる (40分)</p>	
12	12/14	<p>第12回 第7章 まちづくりと生涯学習(その3) 【演習】青森県内の自治体を想定したまちづくりについて、グループで討議する。 ● 予習の内容及び方法：まちづくりについて、自分の考えをまとめる。(30分)</p>	
13	12/21	<p>第13回 第7章 まちづくりと生涯学習(その4) 【演習】青森県内の自治体を想定したまちづくりについて、グループでラベルワークに取り組み、グループの意見をまとめる。 ● 予習の内容及び方法：まちづくりについて、自分の考えを発表できるようにノートにまとめておくこと。(30分) ● 復習の内容及び方法：どんなまちを創りたいか、本時の討議を振り返り、自分の意見をノートにまとめる。(40分)</p>	
14	1/18	<p>第14回 第7章 まちづくりと生涯学習(その5) 【演習】青森県内の自治体を想定したまちづくりについて、グループでまとめたことをプレゼンテーションし、その後、全員で質疑応答。 第8章 グローバリゼーションと生涯学習(その1) 1. グローバリゼーションと生涯学習 2. グローバルな課題に対応する教育 ● 予習の内容及び方法：グループで討議した結果を踏まえ、まちづくりについてレポートにまとめて提出すること。 また、テキストPP.111～115を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(60分) ● 復習の内容及び方法：各グループの発表を聞いて、どんなまちを創りたいと思ったか、自分の考えをまとめておくこと。(30分) * 各グループの青森県のまちづくり案について、解説する。</p>	
15	1/25	<p>第15回 第8章 グローバリゼーションと生涯学習(その2) 3. グローバリゼーション時代に生きる個人 4. 生涯学習の公共性を考える 5. 学習社会の平等と共同性 (コラム)ワークライフバランス ◎授業のまとめ * 授業の中で、随時ディスカッション及びペアワークを行う。 ● 予習の内容及び方法：テキストPP.115～122を読んで、自ら内容を説明できるようにすること。(30分) ● 復習の内容及び方法：生涯学習の公共性とはどのようなことか。説明できるようにノートにまとめる。(30分)</p>	
期末試験			
使用テキスト	テキスト『生涯学習』～学びが つむぐ新しい社会～(新訂版) 田中雅文、坂口緑他(著)		
参考文献 参考URL	・授業の中で、その都度紹介する。		
備考			

開講年次・時期	2年後期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	生命の科学	担当者名	佐藤 敬
授業の概要	生命を構成する物質、細胞、組織、臓器(器官)やそれらの相互作用による生命維持の仕組みを学ぶ。また、コロナウイルス感染症を例に人体の機能について学び、さらには医療や生命倫理についても考える。これらを通して、生命の理解を深め、生命の尊厳に活かすことを目的とする。		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の特徴を説明できる ・細胞の基本構造と機能を説明できる ・生物の種類を説明できる ・人体の基本構造と機能を説明できる ・免疫機構とワクチンについて説明できる ・生活習慣病と日本人の主な死因について説明できる ・医療倫理・生命倫理の概要を説明できる 		
授業時間外学修(予習・復習)	10月12日		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	個々の授業で実施するレポートと期末試験において、到達目標の達成度を問う。知識に加えて、生命科学の課題について自らの考えを明確に持ち、それを正確に表現できることを問う。		
評価の方法・割合(%)	期末試験80%、授業ごとのレポート20%		
履修上の注意事項	期末試験終了後、模範解答をTeamsに掲載するので、どこが正しく、どこが間違っていたかを必ず確認して理解を深めること。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	9/21		(テーマ) イントロダクション (授業内容) 生命の定義、生命の特徴、生命の誕生など、「生命の科学」が扱う生命の基本 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
2	9/28		(テーマ) 生命の基本単位、細胞 (授業内容) 細胞の構造と細胞内小器官の役割、細胞膜の機能 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
3	10/5		(テーマ) 生物を構成する物質 (授業内容) タンパク質、脂質、糖質、核酸などの生体物質とそれらの代謝 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	
4	10/12		(テーマ) 生物の種類 (授業内容) 生物の分類と種々の生物の大まかな特徴 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)	

5	10/19	<p>(テーマ) 遺伝と遺伝情報 (授業内容) 遺伝子と遺伝情報の伝達機構 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
6	10/26	<p>(テーマ) 生殖・発生と分化 (授業内容) 生物種の維持の機構と個体の成熟過程 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
7	11/2	<p>(テーマ) 生物の進化 (授業内容) 生物の進化の過程 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
8	11/9	<p>(テーマ) 先端バイオ技術と社会 (授業内容) 遺伝子操作、遺伝子改変生物と社会への影響 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
9	11/16	<p>(テーマ) 臓器(器官)、組織の基本 (授業内容) 細胞や生体物質からなる臓器(器官)や組織の基本構造 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
10	11/30	<p>(テーマ) 神経系の構造と機能 (授業内容) 主として脳の構造・機能と、行動との関係 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
11	12/7	<p>(テーマ) 摂食と睡眠の科学 (授業内容) 摂食と睡眠を中心とした、行動のメカニズム (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
12	12/14	<p>(テーマ) 感染症と免疫 (授業内容) 新型コロナウイルス感染症における感染免疫 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
13	12/21	<p>(テーマ) 疾病と医療 (授業内容) 日本人の主な死因と生活習慣病 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
14	1/18	<p>(テーマ) 人体への放射線の影響 (授業内容) 放射線とは？放射線の作用と人体への影響 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
15	1/25	<p>(テーマ) 医療と生命倫理 (授業内容) 生命倫理、医療倫理の基本 (予習) 事前に配信する教材を活用して理解に努めるとともに、疑問点を整理する(取組目安時間1時間) (復習) 講義ノートやオンデマンド教材を活用して、テーマに関するまとめを完成する(取組目安時間1時間)</p>	
期末試験			

使用テキスト	資料を配布(配信)する
参考文献 参考URL	<ul style="list-style-type: none">・田村隆明(著) コア講義 生物学、裳華房・石川統(編) 生物学入門、東京化学同人・塩田浩平(編) 人体の構造と機能、中山書店・小林亜津子(著) 看護のための生命倫理、ナカニシヤ出版
備考	